

第2学年 道徳科学習指導案

令和元年10月9日（水） 第5校時

- 1 主題名 自分の心に正直に 内容項目【A 正直、誠実】
- 2 ねらい 主人公の心の葛藤や正直に行動しようとした気持ちについて話し合うことを通して、正直に行動した時の心のすがすがしさに気付き、うそやごまかしをしないで明るい心で生活しようとする態度を養う。
- 教材名 「だれのせい？」（出典：彩の国の道徳「きょうもげんきに」埼玉県教育委員会）

3 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容について

本主題は、学習指導要領の内容項目における【A 正直、誠実】の第1学年及び第2学年の指導の観点である「うそをついたりごまかしたりしないで、素直に伸び伸びと生活すること。」を深めることを意図したものである。これは、第3学年及び第4学年の「過ちは素直に改め、正直に明るい心で生活すること。」につながり、さらに第5学年及び第6学年の「誠実に、明るい心で生活すること。」へと発展していく。また、中学校の「自律の精神を重んじ、自主的に考え、判断し、誠実に実行してその結果に責任をもつこと。」につながっていく。

過ちや失敗は誰にでも起こり得ることである。その時に、自分自身が責められたり、不利な立場に立たされたりすることを回避しようとしてうそを言ったり、ごまかしたりすることがある。第1学年及び第2学年の段階においては、自分自身の言動を他者から叱られたり笑われたりすることから逃げようとする気持ちが働いてしまい、うそを言ったりごまかしたりして暗い心になり、後悔や自責の念、良心の呵責が生じることがある。それらを乗り越えようとするのが正直な心であり、自分の心に正直に行動し、誠実な生き方を大切にする心を育てていくことが重要である。

指導に当たっては、うそやごまかしをしないで明るい心で楽しく生活することの大切さを押さえ、いけないことをしてしまったときには素直にその非を認め、あやまり、正直で素直に伸び伸びと生活できる態度を養うことが大切である。

(2) これまでの学習状況及び児童の実態について

本学級の児童は、これまでの道徳の授業「子だぬきポン」で「正直に言うことの大切さ」を学び、「メイとケンブ」で「自分が正しいと思ったことをすることの大切さ」を学んできた。多くの児童は、うそをついたりごまかしたりしてはいけないことや、正直で素直な行動をしたほうがよいことは理解している。そのため、1年生のときから見ると、善悪の判断もつくようになり、互いにはいけないことを注意し合う様子も見られるようになった。反面、知恵もつき、注意されることを回避しようと、ささいなごまかしを言ったり、誰も見ていないところでは自分の行動にうそをついたりすることも度々ある。道徳の時間には、模範的な発言が多い児童たちである。主人公の気持ちは上手に話せるが、価値を自分のこととして捉える児童はまだ少ない。

以下、児童に行ったアンケート調査の結果である。（実施日 令和元年9月 31名回答）

○自分の失敗やよくないことをごまかすために、うそをついてしまったことはありますか はい・・・16人 いいえ・・・15人
○それはなぜですか（はいと答えた人） ・怒られたくない ・みんなの前だと恥ずかしい ・ばれたくない ・遊びで負けたくない ・勉強でわからないところがあった
○自分がいけないことやよくないことをしてしまったらどうしますか（無回答・・・3人） 正直に言う・・・16人 正直に言えない・・・0人 すぐに言えず迷ってしまう・・・12人

結果を見ると、「自分の失敗やよくないことをごまかすために、うそをついてしまったことはありますか」という質問に、半数は「はい」と答えている。多くの児童は、今までうそやごまかしをしてしまったことがあり、誰にでも経験があることだと言える。その理由も、「怒られたくない」や、「恥ずかしい」という自分を守ったり、よく見せようとしたりする気持ちが多く、2年生の段階では、自分の心に正直に行動することが難しい児童もいる。また、「いいえ」と回答した児童の中には、自分をよく見せたいと思っていたり、うそやごまかしをしている自覚がなかったりする児童もいることが考えられる。さらに、「自分がいけないことやよくないことをしてしまったらどうしますか」という質問では、半数以上が「正直に言う」と答えており、うそやごまかしをせず、正直に言った方がよいことは多くの児童が理解している。その反面、「すぐに言えず迷ってしまう」と答えた児童も多く、やはり自分のこととなると、正直に言うことは理解していても、すぐには行動できない迷いが生じてしまうことがわかる。

そこで、本時の授業を通して、うそをついたりごまかしたりしないで、正直に行動することのよさや明るい心で楽しく生活することの大切さに気付くとともに、人に対しても自分に対してもうそをつかない正直な心や明るい心を身に付けることができるようにしたい。

(3) 教材の特質や活用方法について

本教材は、ひろくんがてっちゃんと休み時間にサッカーをしていて体育小屋の窓ガラスを割ってしまい、正直に言おうか迷っているひろくんの心の葛藤を通して、ねらいに迫るものである。過ちを人のせいにして責任逃れをしようとする2人の姿や、先生に本当のことを話すために職員室に向かう2人の姿から、人の心の弱さに共感しながらも、過ちを隠し通すことのつらさや、正直に行動することのすがすがしさに気付くことで、うそやごまかしをしないで明るい心で生活することの大切さを学ぶことができる教材である。

本学級の児童の実態を受け、主に次の場面を中心に話し合うことにする。

① 窓ガラスを割ってしまい、2人で言い合っている場面

ここでは、「自分が悪いのではなく相手が悪い」と人のせいにしようとする心の弱さや焦りに共感させる。

② 「平気だよ」という言葉に心がもやもやしている場面

ここでは、ごまかそうとする心と良心とで葛藤している主人公の気持ちについて、自分の立場を明確にして話し合わせ、考えを深めさせる。

③ 先生に本当のことを話そうと決心した場面

ここでは、正直に話すことを決心した心の内を考えさせ、正直に行動することのすがすがしさに気付かせる。

以上の理由から、本主題を設定した。

本教材を通して、過ちを人のせいにして責任逃れをしようとする、人の心の弱さに共感させると共に、自分の心に正直に向き合ったことで素直に謝りに行く態度が生まれたことを捉えさせたい。そして、自分を偽らず、正直であることは、気持ちがいいということに気付かせたい。

4 研究主題との関わり

確かな学力を身につけた みなみっ子の育成を目指して
～「つながる」学習、「かかわる」道徳～

<仮説1>

自分との関わりで考え、他者と話し合う活動を充実させ、主体的で対話的な学びのある学習過程の工夫をすれば、考え、議論する深い学びとなり、児童の豊かな心が育つであろう。

<手立て>

- ・主人公に自分を投影しながら自分のこととして考えられるように、発問に沿って教材の提示を区切ったり、自分の立場を明確にする活動を取り入れたり、考えをワークシートに書いたりする時間を充実させる。
- ・主人公の気持ちを多面的に考えさせるため、自分とは立場や考えの違う友達の意見を聞く話し合い活動や主人公の気持ちの変化に迫る役割演技を取り入れる。

<仮説2>

ワークシートを活用した価値理解、他者理解、自己理解を深める評価の工夫をすれば、物事を多面的・多角的に考え、ねらいとする道徳的価値に迫ることができ、児童の豊かな心が育つであろう。

<手立て>

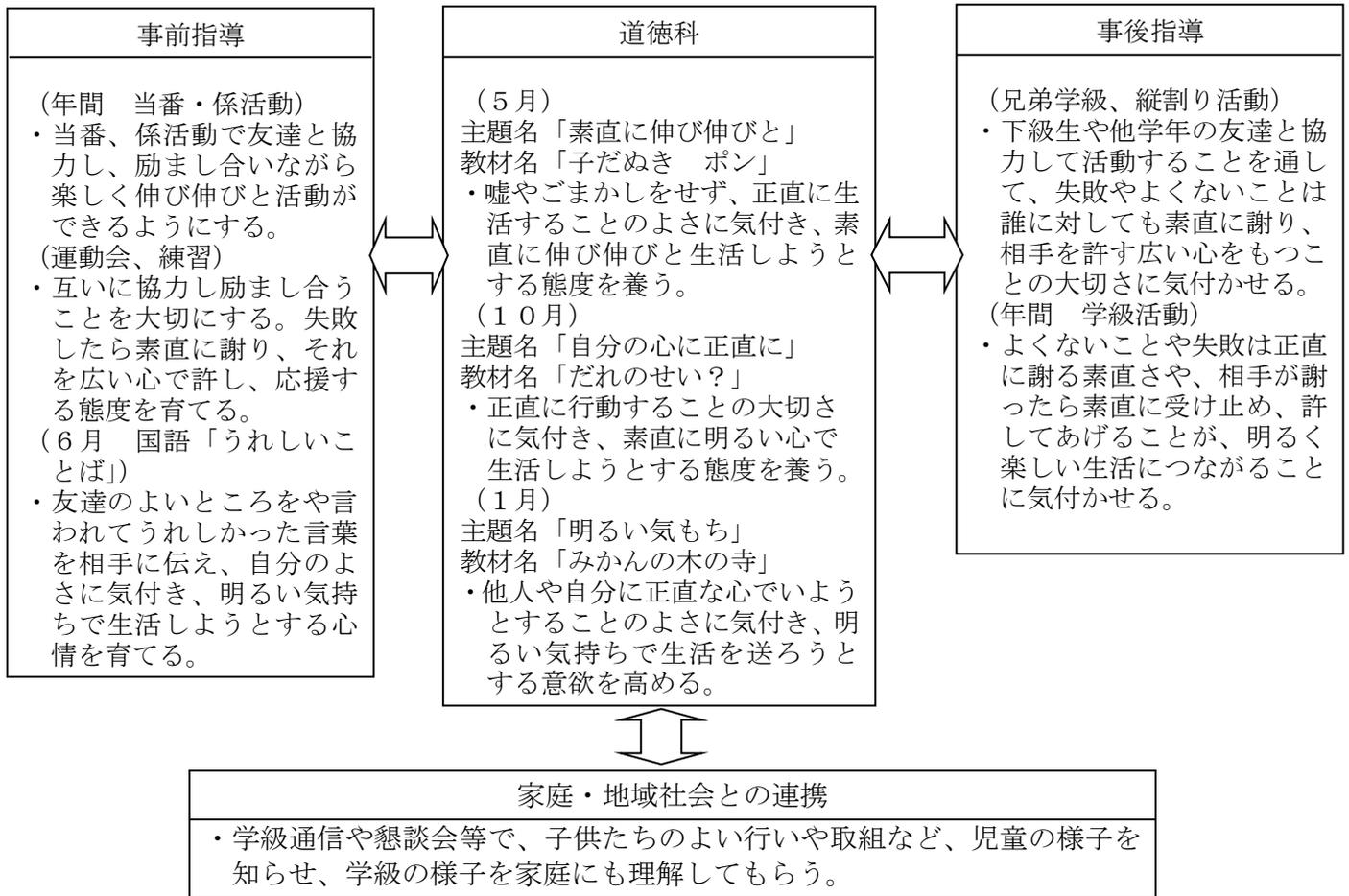
- ・ワークシートを活用して道徳的価値の理解を深めるために、課題に対する最初の自分の考えを書かせたり、ねらいとする場面で自分の考えを書かせたりして、それをもとにした学習の振り返りや自己評価ができるようにする。
- ・価値理解や自己理解の深まりを評価するために、教師の説話を聞いてからワークシートに振り返りを書かせる。

5 学習指導過程

階	学習活動・主な発問	予想される児童の発言	指導上の留意点 ☆評価の視点	時間
導入	1 アンケートの結果を見る。 2 本時の課題をつかむ。	正直に言うよさってなんだろう	・今まで正直に言えなかった経験は誰にでもあることや、正直に言った方がよいという価値はみんなもっていることを確認して、課題につなげる。 ・課題意識をもたせるために、今の自分の考えをワークシートに書かせる。	5分
展開	3 教材の条件、状況を知る。 4 教材「だれのせい？」の読み聞かせを聞きながら、話し合う。 (1) なぜ二人は言い合っているのかな。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・登場人物：ひろくん（主人公）、てっちゃん（友達） ・条件、状況 サッカーが大好きなひろくんが休み時間にてっちゃんとサッカーをしていたら、ボールが窓ガラスに当たり、ひびが入ってしまった。 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・じぶんのせいじゃない ・てっちゃんが悪いから ・怒られちゃう 	・「自分が悪いのではなく相手が悪い」と人のせいにしようとする心の弱さや焦りに共感させる。	3分 5分

	<p>(2) ひろきくんはなぜもやもやしているのでしょうか。</p> <p>・「正直に言う」「すぐに言えない」自分はどうですか。</p>	<p>・ばれたらどうしよう</p> <p>・本当に平気か不安</p> <p>・ばれたらどうしよう</p> <p>・言った方がいいけど言えない</p> <p>・このままでいいのか迷っている</p>	<p>・葛藤する主人公の心を深く考え、共感させるため、「ごまかそう」という考えと「正直に言おう」という二つの気持ちに気付かせる。</p> <p>・自分との関わりで考えられるように、心のカードを活用し、自分の立場を明確にして話し合わせる。</p>	10分
	<p>(3) 先生に言おうと決心した時、2人はどんなことを話したかな</p>	<p>・このままじゃいけない</p> <p>・正直に話した方がいい</p> <p>・もやもやしたままだといやだ</p>	<p>・正直に話そうと決意した主人公の気持ちを自分との関わりで考えられるように、もやもやした心と対比しながら決心したときの気持ちをワークシートに書かせ、グループで話し合わせる。</p> <p>☆主人公の心の葛藤や正直に行動しようとして決意した気持ちについて考え、話し合っている。(発言・記述)</p>	8分
	<p>(4) 先生に本当のことを話した後、ひろくんはどんな気持ちになったでしょう。</p> <p>・どのように気持ちが変わったのか考えてみましょう。</p>	<p>・話してよかった</p> <p>・すっきりした</p> <p>・言ったほうがいいな</p> <p>・もやもやがなくなった</p> <p>・明るい気持ちになった</p> <p>・サッカーも楽しくできる</p>	<p>・主人公の心の変化を感じられるように、2人で決意した時から、先生に本当のことを言った後までの一連の流れを役割演技で行う。</p> <p>☆うそやごまかしをせずに、正直な心でいようとする事のよさについて、自分との関わりで考えている。(発言、役割演技)</p>	6分
	<p>5 教師の説話を聞く。</p>		<p>・教材の価値を一般化し、振り返りにつながるように話をする。</p>	3分
終末	<p>6 本時の課題について考え、今日の学習を振り返る。</p> <p>・正直に言うよさって何だろう。</p>	<p>・正直に言うともやもやした気持ちがすっきりする</p> <p>・正直に言った方が気持ちがいい</p> <p>・うそついていると、楽しくないから正直に言ったほうがいい</p>	<p>・うそやごまかしでもやもやする心と、正直に言ってすっきりした心を比較しながら、正直に言うことのよさを考えさせ、本時の課題と、価値理解に迫る。</p> <p>○書く活動を通して、自分自身をしっかりと見つめさせ、ねらいとする道徳的価値についての自覚を深めさせる。</p>	5分

6 他の教育活動との関連



7 評価の視点

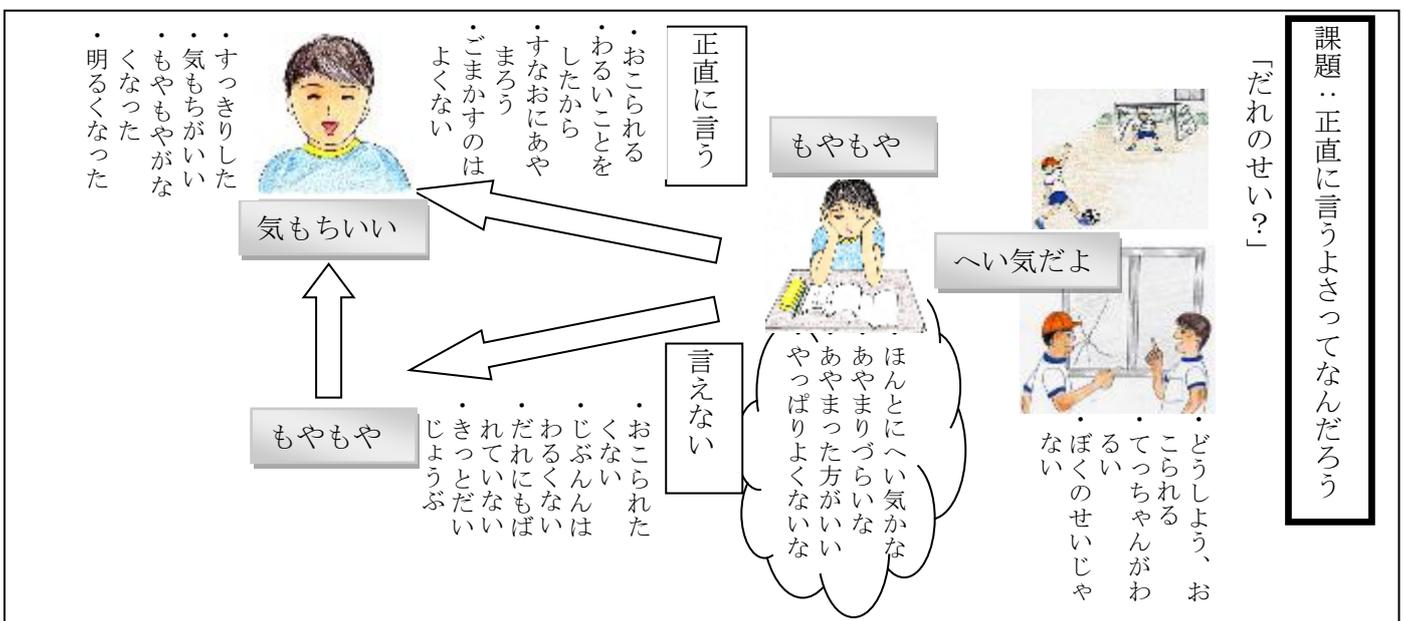
【物事を多面的・多角的に考えている様子】

- 主人公の心の葛藤や正直に行動しようとした気持ちについて考え、話し合っている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- うそやごまかしをせずに、正直な心でいようとすることのよさについて、自分との関わりで考えている。

8 板書計画



9 教材吟味表

【教材名】だれのせい？ (出典 彩の国の道徳「きょうもげんきに」埼玉県教育委員会)

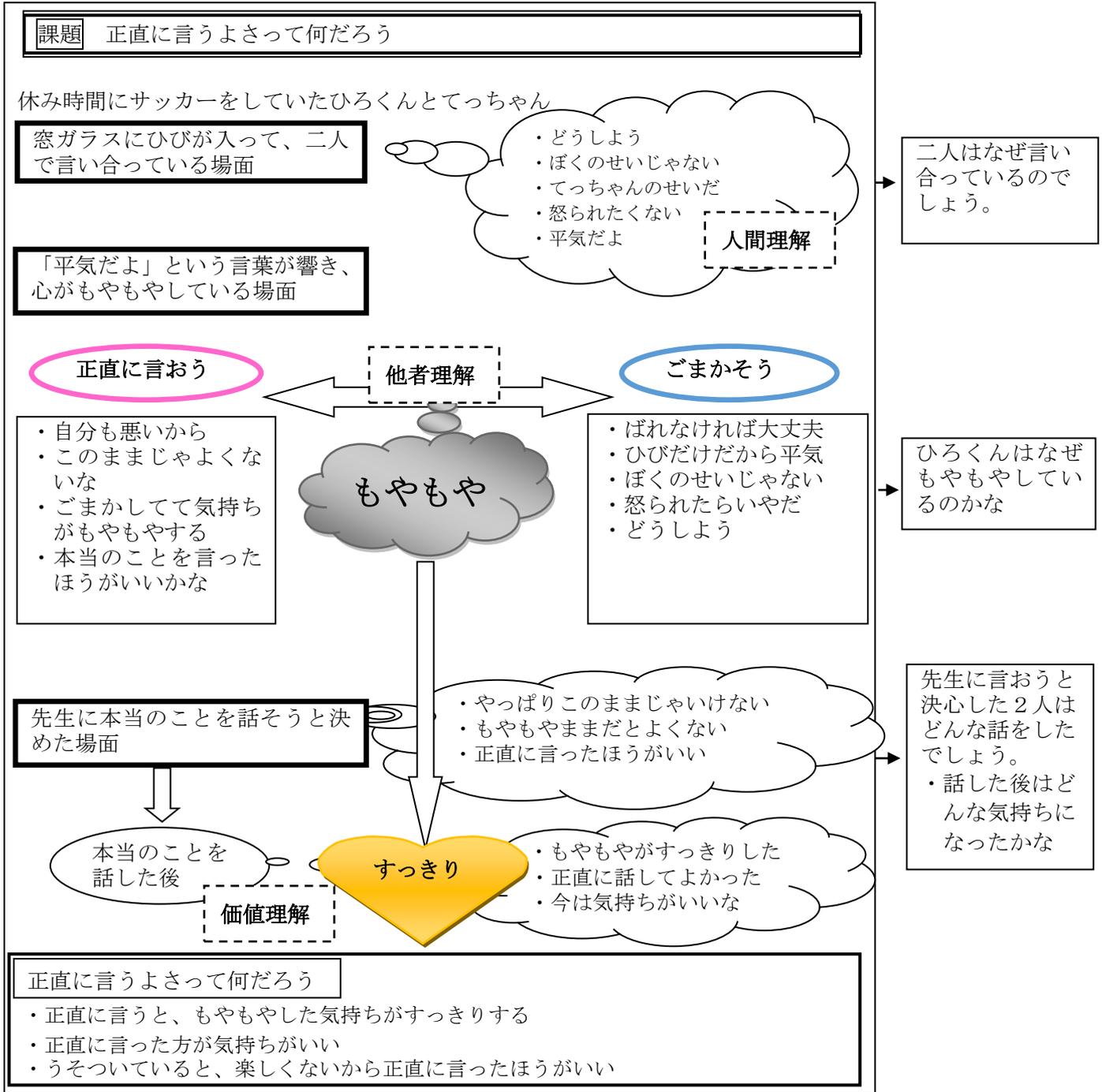
【主題名】自分の心に正直に

条件・情況

主人公 ひろくん 登場人物 てっちゃん

- ・ひろくんはサッカーが大好き。休み時間にてっちゃんと校庭でサッカーをしている。
- ・てっちゃんが蹴ったボールがひろくんの手をはじいて体育小屋の窓に当たり、ガラスにひびが入った。
- ・二人で言い合い、てっちゃんの「ひびが入っただけだから平気だよ」という言葉でひろくんの心がもやもやしている。
- ・次の日の朝、ひび割れたガラスにテープが貼ってあるのを見て、本当のことを話そうと職員室に向かう。

【話題につなげたい場面や気持ちの変化、キーワードや話合いの柱など】



【内容項目】A 正直、誠実

【ねらいとする人間像】うそをついたりごまかしたりしないで、素直に明るい心で生活しようとする児童